音階練習の指使いについて

久　保　不　二　郎

Summary

Scale training has generally included the training of interval and playing speed. It has been mechanically practiced by musical performers and beginners.

But the trainig cannot be effective without by the integrated training method musically and scientifically.

In training with the stringed instruments, especially, fingering in playing has more influence on the security of holding interval than with such an instrument as a piano, because scale in the stringed instruments is not based on Temperament, but on Just Intonation.

The conventional method of fingering in playing the stringed instruments is gradually changing into the new reasonable method, by which the security of fingers position in moving and of interval in playing can be kept.

This study is a research for the new scientific method of scale training.

音階練習は，音程と速さの練習と昔から定められてますが，初心者や演奏家にとって，毎日の訓練用具として奏らでれてますが，余り機械的で，毎日同じ指使いでやっても無意味で，やはり音階練習を音楽的，技術的の総合の練習としてするべきだと考へます，ピアノの平均率の音階と違って，弦の場合は純正調の音階なるが故に指使いの方法一つで，音程の確実度が相当に違ってくると思います。

次の例ですが，同じ音階でも，指使いが各人によって異ってます，昔よりの指使いが，段々と新しい理想な方法に変りつゝあると思います，つまり位置より位置の滑降，移行において，いたずらに無益な方法をとらずに，指の確実性や音程の安全性の得られる方法をとるべきであると考へて，又日本人の小さな指を考へる時に，色々な指使いを学ぶ事により解決出来ると思います。

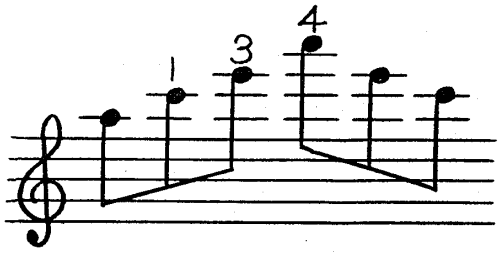
例1　(*a moll*)

Hrimaly は上行の場合，最初の音を第1指をずらして，始めてますが，小生はやはり第2指を使用してハーフの位置より始る方が自然だと思います。

下行の場合 ***Hrimaly*** は第6の位置より第3の位置に，即ち第1指より第4指に移動してますが，***Flech*** は第6の位置より先づ，第5の位置に移り第1の位置に下行してます，即ち第4，3，2指より第3指に移り，第1の位置の第4指に下行してます，小生の場合は下行の時は，第6の位置より第4の位置に移り第1の位置に下行してます，即ち第1指より第3指に下って第1の位置の第3指に移動してます。

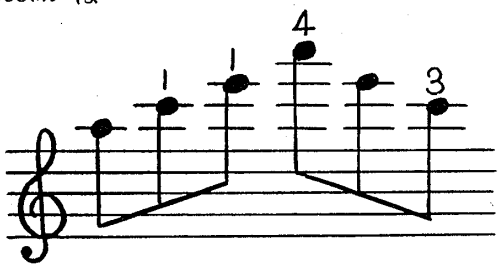
アルペジオの場合

Hrimaly は



第4指をのばして第5の位置のまゝで次の音をとってます。

Flesch は



第1指を第6の位置にとってます。

私も *Flesch* と同じ方法でとって非常に安全性がありますので，二の方法を使用してます。

次に3オクターブの音階についての指使いを示してますので，参考にして載きたい。

Kは小生の使用してる指使い

Hは *Hrinuly* の指使い

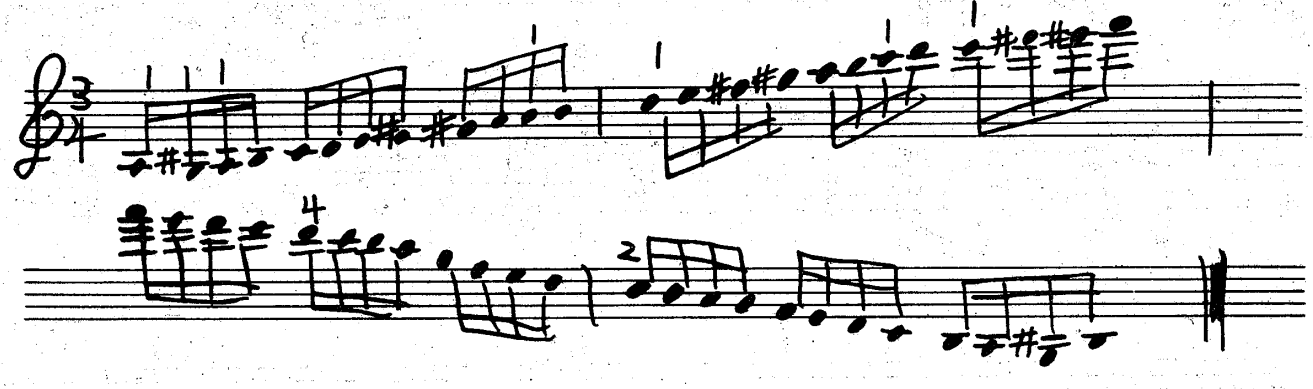
Fは *Flesch* の指使い

ⅠⅡⅢⅣⅤⅥの番号は各位置を示す。

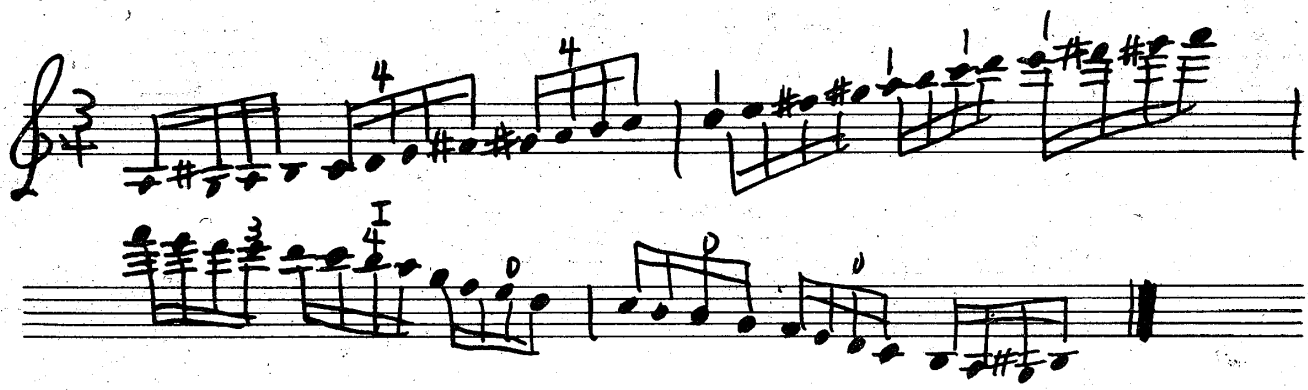
上記の音階の各人の特長として *Hrinaly* は下行の時に第1指より第4指への移動が多く，*Flesch* は第1指より第3指へそれより第4指の第1位置への移動が多くみられます。小生の場合は第1指より第3指への移動して第1の位置の第3指への移動を多く使用してます。各人とも全然同じ使用の音階もあります。即ち**D**，**D**b **E**，**E**b，**H**，**B**bのアルペジオの音階は全く同じ指使いです，この音階に関しては，この指使いが一番理想的だと思います。

この様に楽曲を演奏する場合，色々と問題が起りますが，指使い一つで，曲が生きたり死んだりする事も事実ですので，今後なほ理想的な指使いの解明につとめたいと思います。

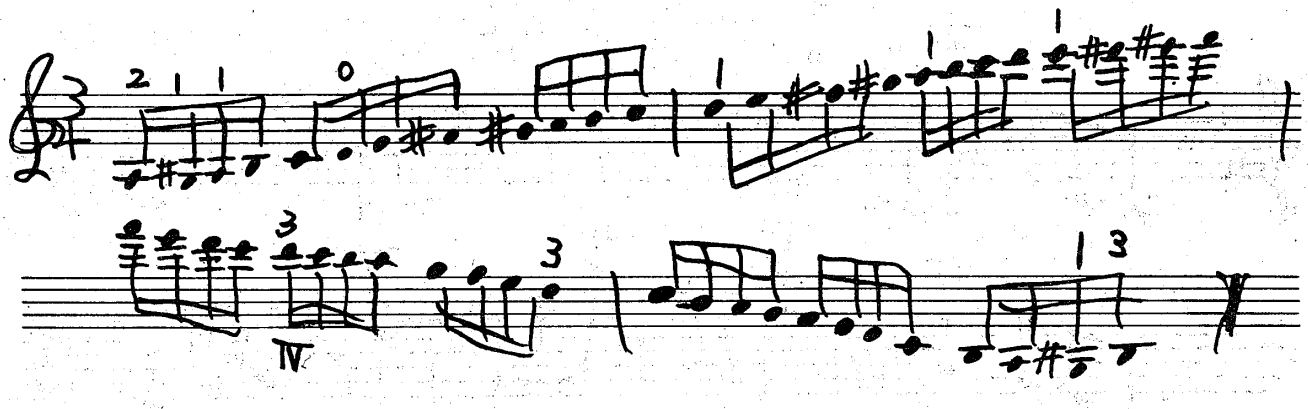
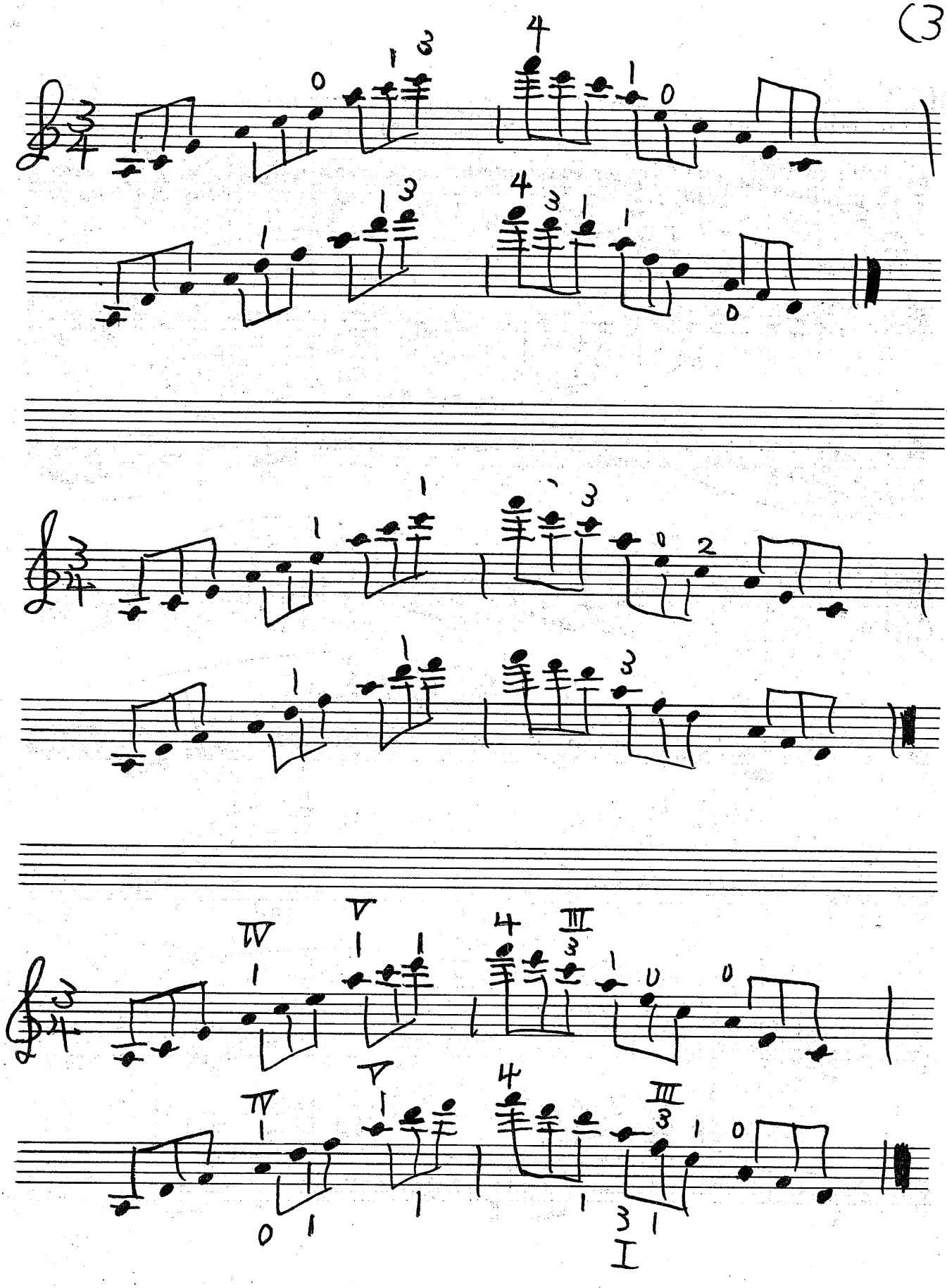
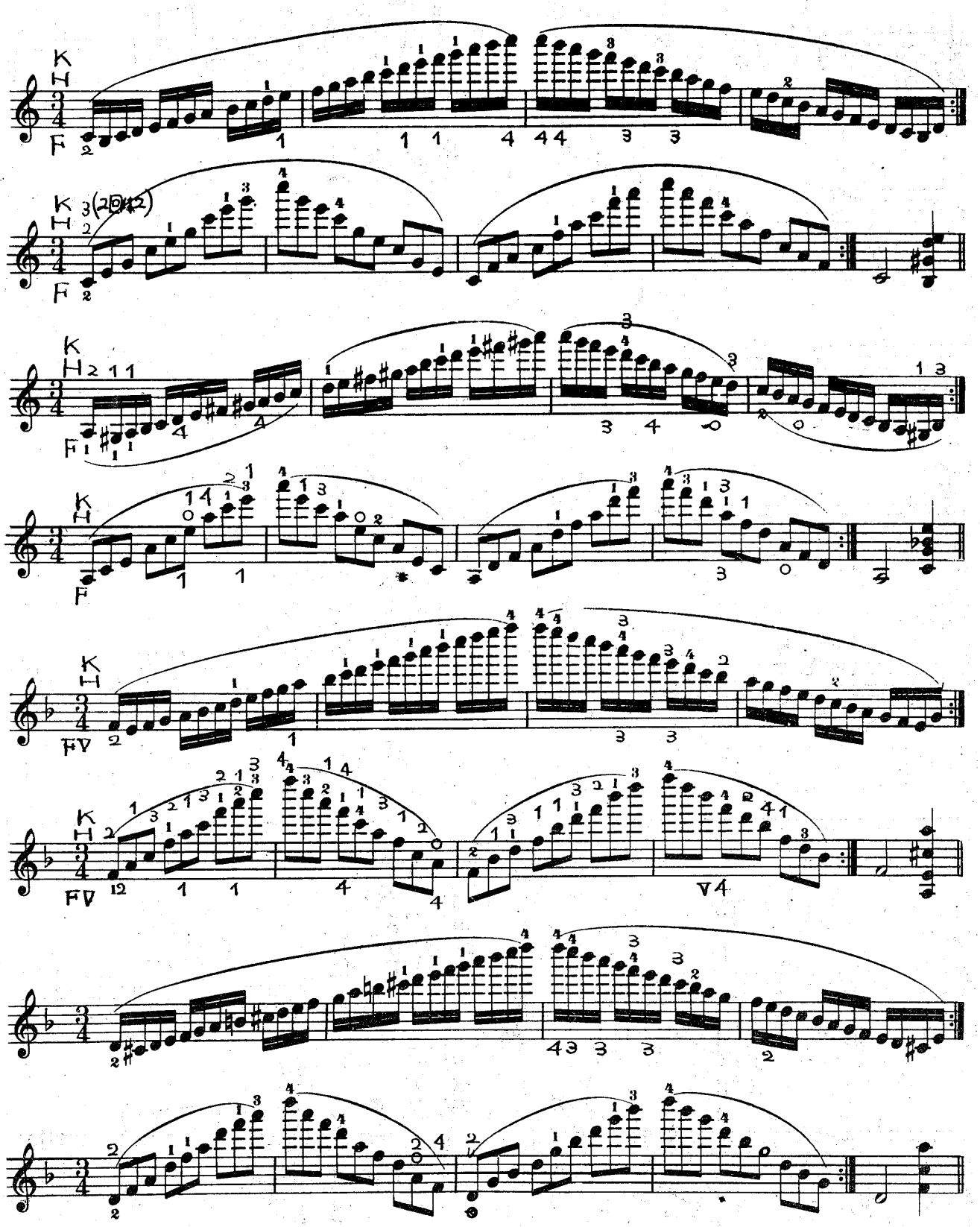
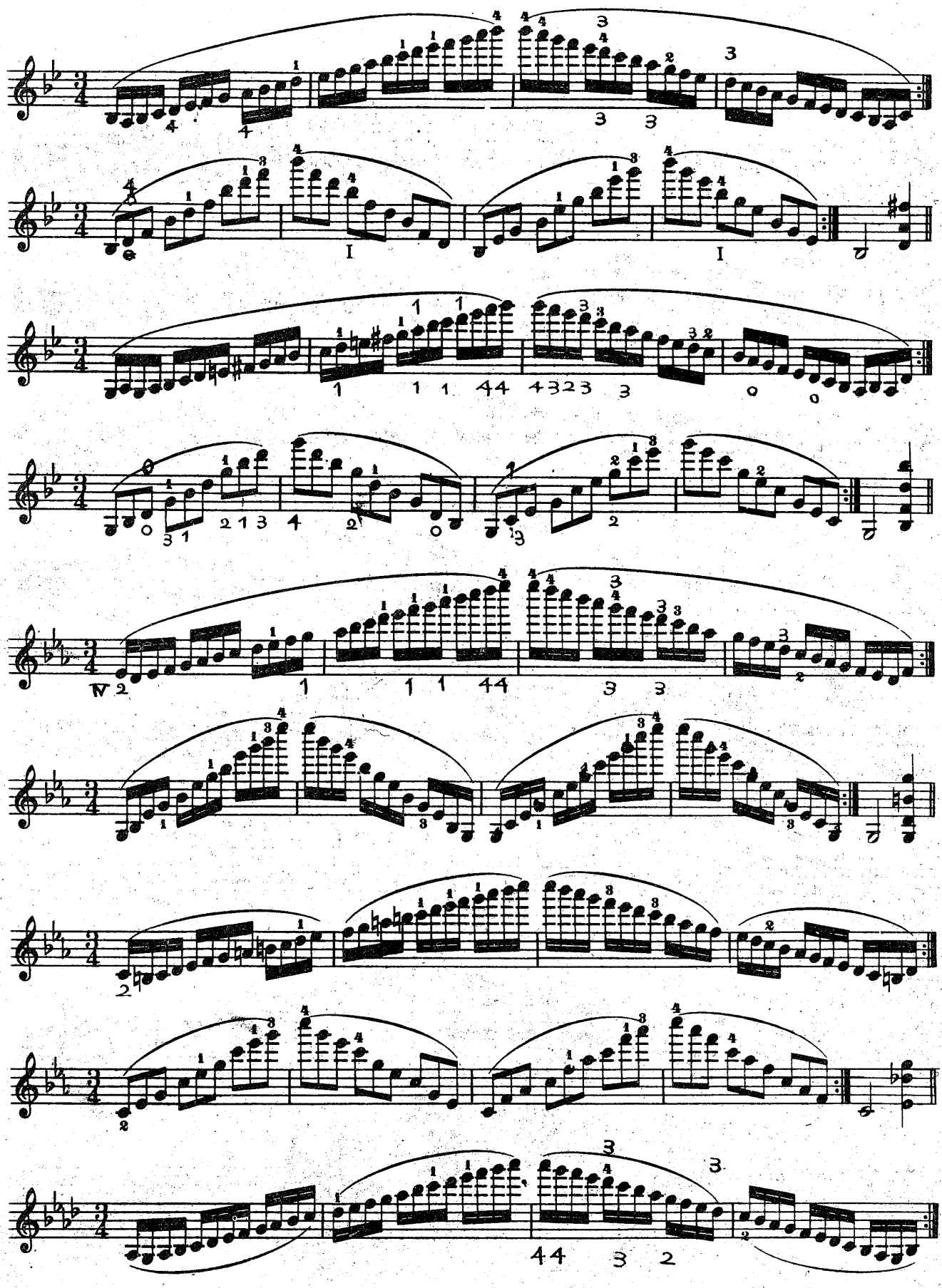
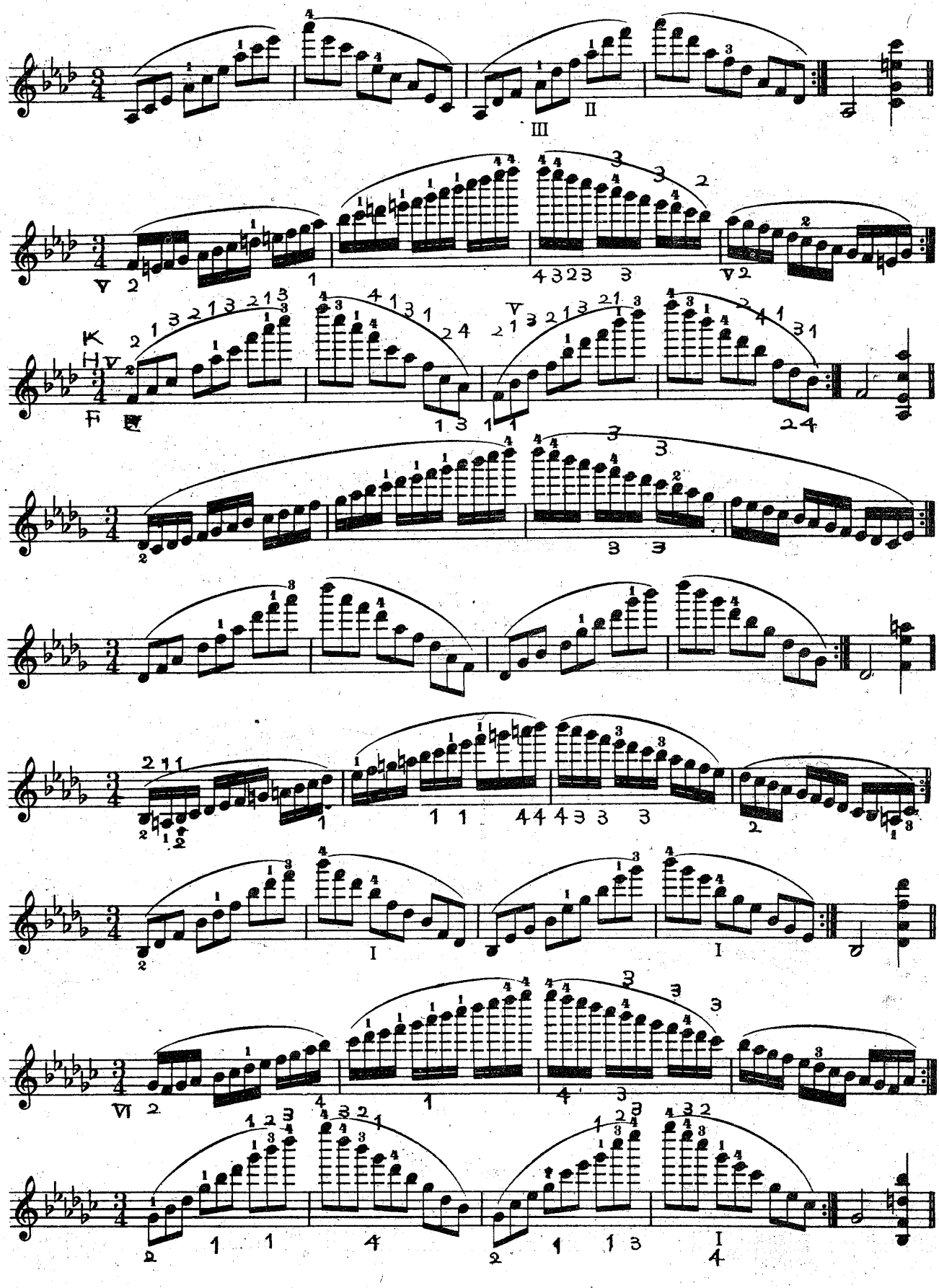
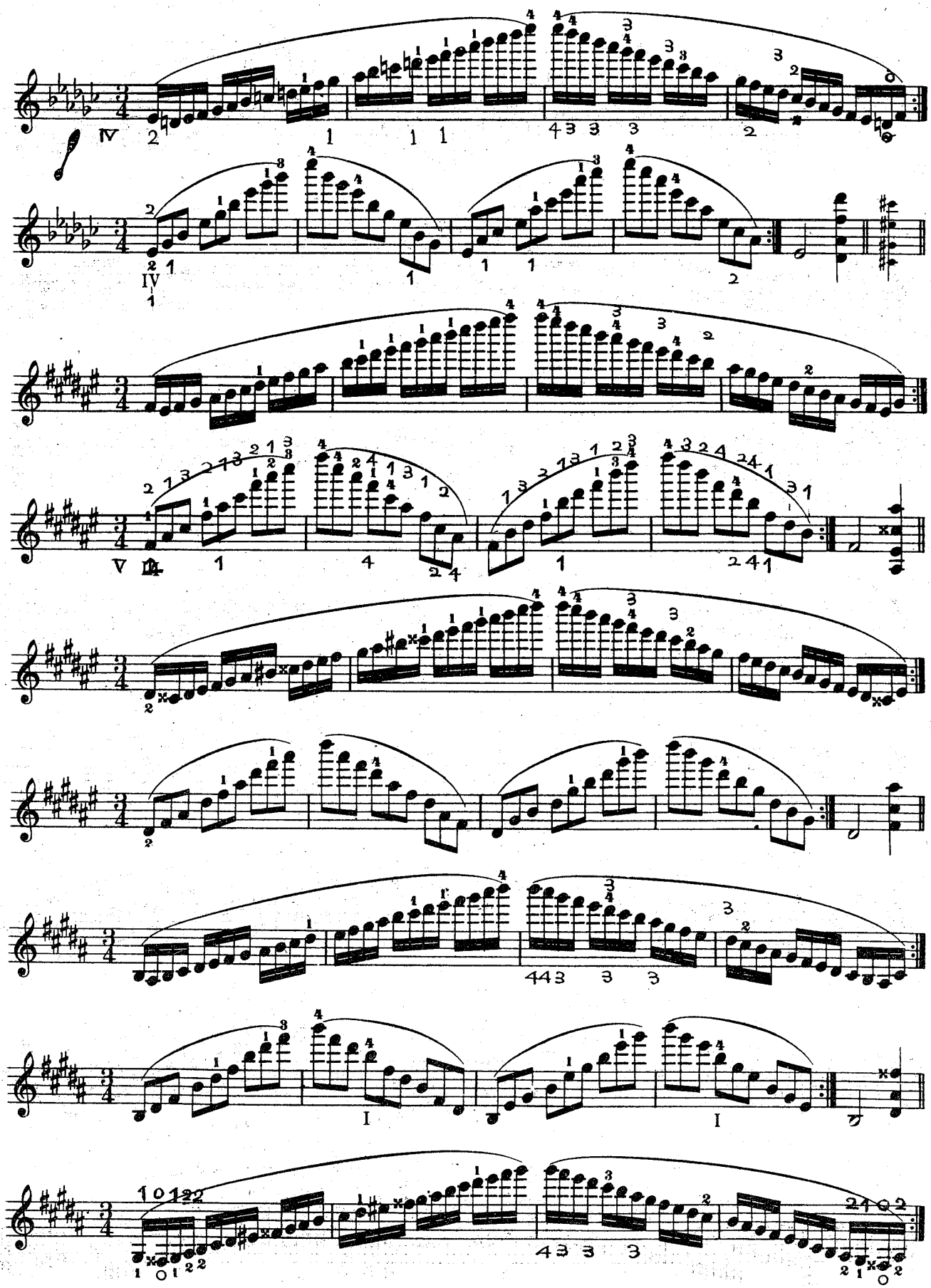
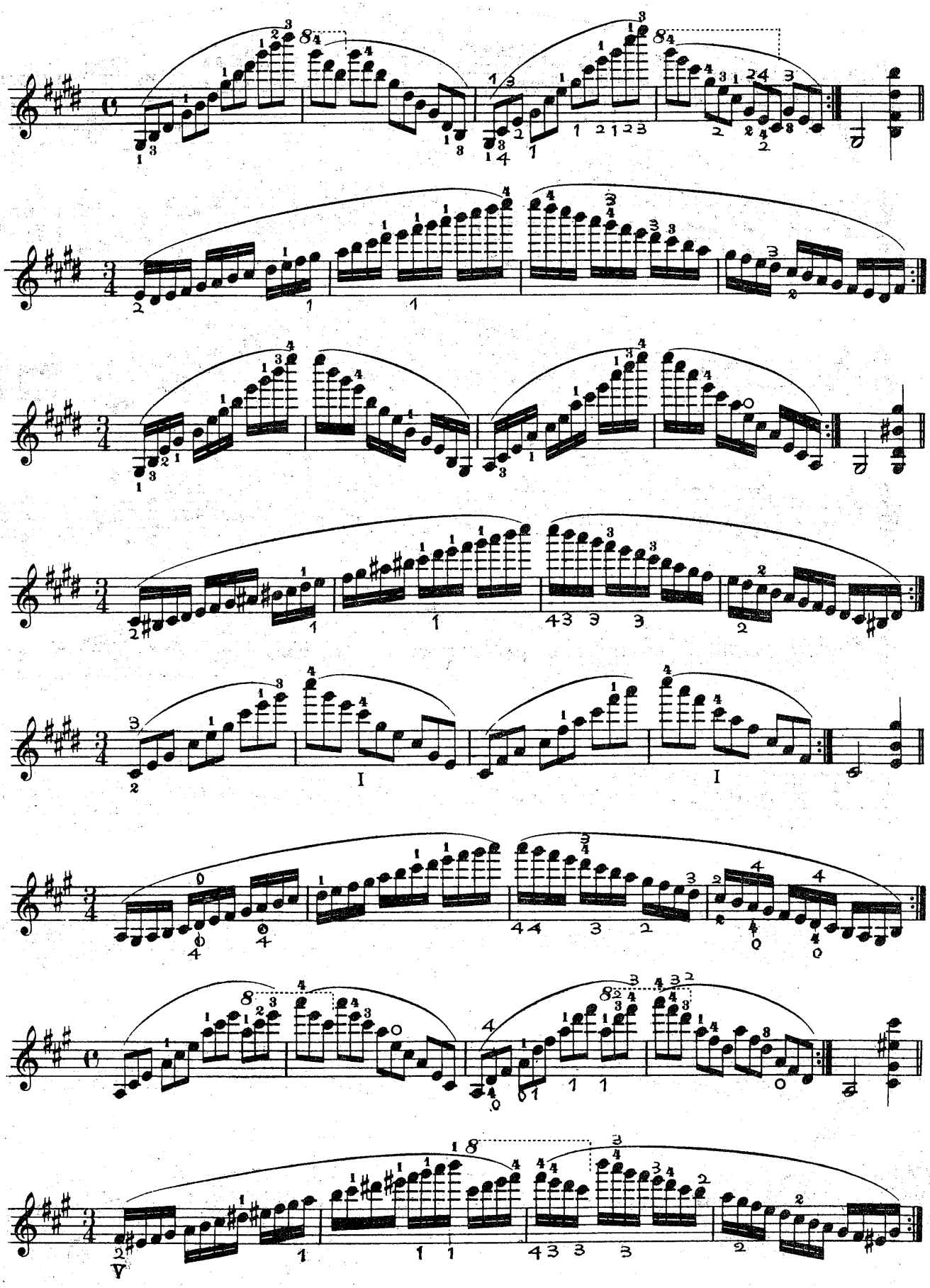
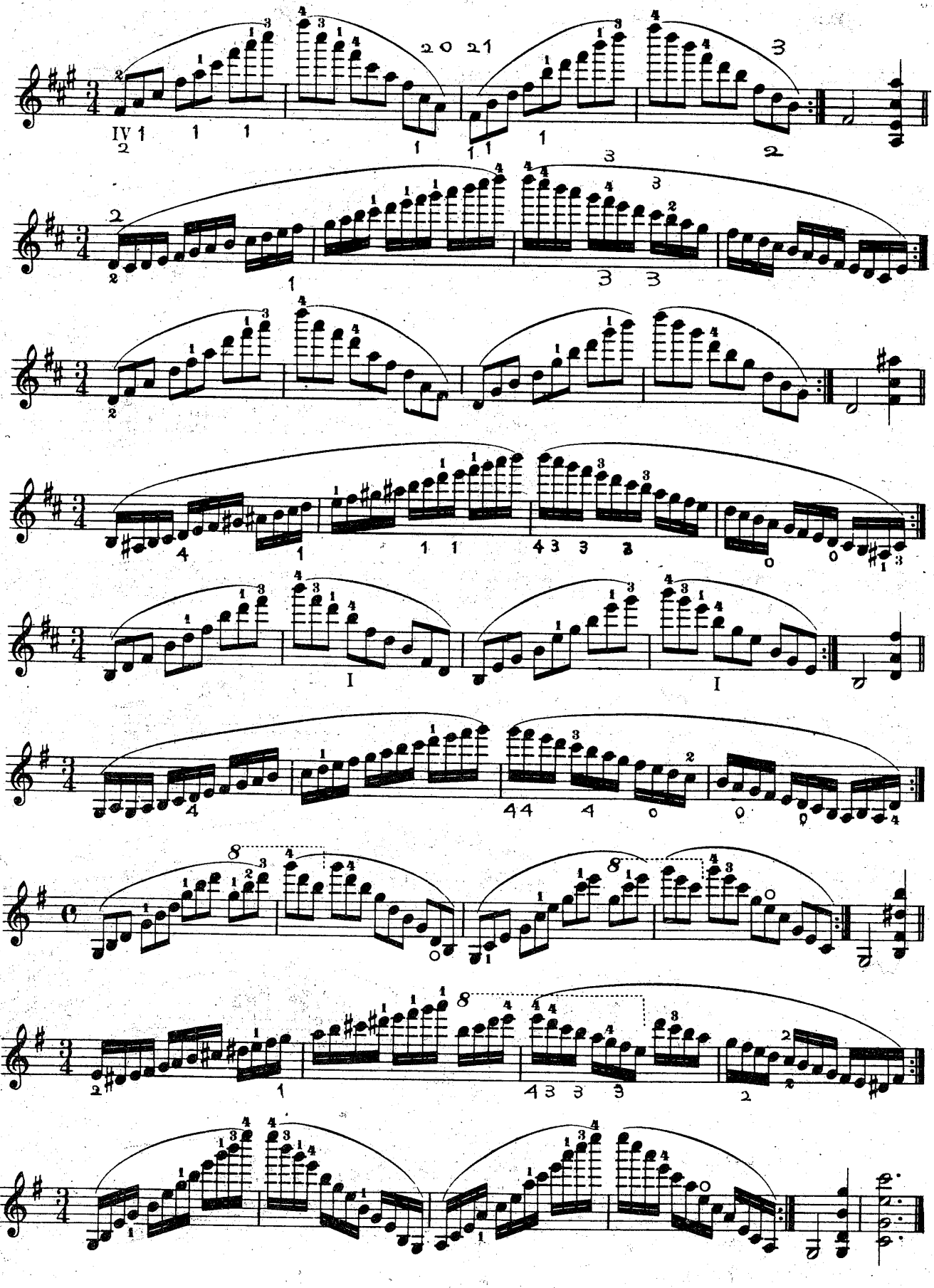
(例1) Hrimaly (2)



Flesch



Kubo



(3)